

トラックを起因物とする激突されの死亡災害発生事例（1999-2021年）

発生年	発生月	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
2021	2	12～14	事業場敷地内で、キャリアカーの上段に載せていた荷であるトラックを降ろすため荷台を傾斜（約15度）させた際、当該トラックに輪止めを行っていなかったことから、これが逸走し、キャリアカーの荷台上に居た被災者に激突、当該トラックの半開きになっていたドアとキャリアカーの支柱に挟まれた。昏睡状態が続いたが、後日死亡した。	40301	10～29
2021	2	8～10	堤防強化工事現場において、盛土を搬入するダンプトラックがバックで運搬路を進入する際、当該運搬路上で携帯電話を操作していた被災者の存在に気付かないまま、バックするダンプトラックと接触し、死亡したもの。	170201	1～9
2021	4	10～12	フォークリフトで機材を運び終えて後退しようとしたところ、前輪が地面に敷かれた碎石に埋まり動かなくなったため、軽トラックでけん引するために車両間をワイヤロープで繋いでいたところ、軽トラックの運転者が誤って前進させたために、被災者がフォークリフト後部と軽トラックのフロント部に挟まれて死亡したもの。	30202	1～9
2021	5	12～14	S造2階建て新築工事において、作業場内で不要になった碎石の山（約15立米）を移動させるため、被災者が0.5立米ドラグショベルで作業中にアーム・バケット部分の様子を確認するため降車していた際、同僚がそれに気づかず4tダンプを後進させたところ、ドラグショベルのアーム部分とダンプのあおり部分に胸部と頭部を挟まれたもの。	30201	50～99
2021	10	8～10	道路舗装の補修工事において、後退してきた貨物自動車（8トンダンプトラック）に一次下請の作業員が激突されひかれたもの。	30106	10～29
		12	被災者は、私有林の林道上で木材グラップル機のアタッチメントを修理中、		

2021	12	～ 14	林道上を後退してきた貨物自動車（１４トントラック）と激突した。なお、貨物自動車は、約５００メートル離れた土場へ移動するため後退で走行していたもの。	40301	10～ 29
2020	3	～ 18	１０ｔ大型ダンプの荷台後部あおり下部の車体枠の修理中、あおり（重量：約１２０ｋｇ）が頭部に激突した。（災害の現認者はおらず、被災者は右腕をあおりにはさまれた状態で発見された。）	11701	1～9
2020	6	～ 2	商品仕入れのため、市場に出向いており、場内の駐車場からせり場に向かうため、横断歩道を歩行していたところ、スロープを下って左折をしてきたトラックに左方向から衝突され、右方向に４～５メートル跳ね飛ばされたものの。その際に頭部をひどく打ち付け負傷（両側急性硬膜下血腫、脳挫傷他）。	80209	30～ 49
2020	7	～ 16	工事現場内のドラグ・ショベルＡの誘導を行うために入っていた被災者は、作業の進行で不具合が生じたため、一時、誘導をしていたドラグ・ショベルＡの近くから離れた。その際に、同じ敷地内でドラグ・ショベルＢが掘削した土砂を運搬していたダンプトラックが、積み込み場所を変えるため移動し、後退している途中で、ダンプトラックの左後方部にはねられた。	170201	100 ～ 299
2020	7	～ 12	牧場の牧草地にて、ハーベスター（飼料収穫機）とダンプトラックを用いて牧草の収穫を行っていたところ、ダンプトラックが泥濘にタイヤを取られた。そのため、ハーベスター後部とダンプトラック後部を両端にフックが付されたワイヤロープでつなぎ、牽引していたところ、被災者がハーベスターとダンプトラックの間に入り、挟まれたもの。	70101	1～9
2020	10	～ 14	３ＫＬタンクローリー車を運転して重油等を配送した後、事業場が賃借している駐車場（ガレージ）に駐車して何らかの作業を行っていた被災者が、当該タンクローリー車の後方車体部と、駐車場前面の山道を挟んだ山林の法面との間で挟まれている状態で発見されたもの。	80109	1～9
2020	11	～ 20	被災者は、当該事業場の駐車場において、トラックを駐車させ下車したが、トラックが後方に動き出したため、トラックの後方に回り止めようとしたが、止まらず、フェンスとトラックに挟まれた。	40301	100 ～ 299

2020	12	8 ～ 10	工場敷地内の軽炭受け入れサイロ前において、被災者が単独で粉粒体運搬車にて石灰の荷降ろし作業中、車載タンク上部の作業台上（約3.3m）に設置されているマンホールの状態を確認していたところ、石灰が噴出してマンホールの蓋（直径約55cm）が吹き飛び、被災者が地上まで墜落し死亡したものの。	40301	10～ 29
2019	6	10 ～ 12	河川の護岸工事現場において、被災者が運転する貨物自動車（ダンプトラック）（3t）に積まれた砂利を降ろすため、車両系建設機械（ドラグ・ショベル）の前に貨物自動車を停車させ、車両系建設機械に乗り換えようと貨物自動車を降り、貨物自動車と車両系建設機械の間を通行した際、無人の貨物自動車が後退し、貨物自動車と車両系建設機械の間に挟まれたものの。	30107	1～9
2019	7	12 ～ 14	被災労働者が店舗の駐車場で荷受けのために待機していたところ、後退してきたトラックの運転手がペダル操作を誤り、トラックが後退して壁に激突した。被災労働者はトラックと壁との間に挟まれ、外傷性脳障害により死亡した。	80109	1～9
2019	12	14 ～ 16	整備が終了したトレーラにトラクタを連結するにあたり、整備工場の運転手がトラクタに乗り込み、後進させトレーラに近づいた際、トラクタ左後方にいた整備員である被災者に接触した。接触したことにより被災者は転倒したが、転倒したことに気付かなかった運転手がさらにトラクタを後進させたため、被災者がトラクタの左後方車輪に轢かれたもの。被災者は骨盤骨折による出血性ショックで死亡した。	40301	30～ 49
2019	12	2 ～ 4	下水道管工事現場にトラックが突っ込み、警備員2名（うち1名死亡）がはねられ、さらに停止していた工事車両に追突し、当該車両の付近にいた作業員4名（うち1名死亡）と警備員1名も巻き込まれたもの。	170201	100 ～ 299
2019	12	2 ～ 4	下水道管工事現場にトラックが突っ込み、警備員2名（うち1名死亡）がはねられ、さらに停止していた工事車両に追突し、当該車両の付近にいた作業員4名（うち1名死亡）と警備員1名も巻き込まれたもの。	30110	10～ 29
			被災者が、納品先のドラッグストアで納品を終えた後、運転席に乗り込みドアを閉めたところ、広告用の幟をドアに挟んでしまった。ドアを挟んだこ		

2018	3	12 ～ 13	とに気づかずに被災者がトラックを発進させたところ、幟が動き出したため、トラックを停車し、運転席のドアを開けながらトラックを後退させたところ、被災者が運転席から墜落し、そのまま後退をしているトラックと金属製の車止めにはさまり死亡した。	40301	10～ 29
2018	5	20 ～ 21	係留中のパナマ船籍の貨物船内において、コンテナ内の温度管理に従事する労働者が、コンテナ受け木の整理のためにかがんで作業を行っていたところ、後退してきたトレーラーと船内の柱との間にはさまれたもの。	30302	50～ 99
2018	10	16 ～ 17	橋梁の塗装工事後に刷毛を洗うため、被災者は現場に乗り入れていたトラックのヘッドライトを照らしたが光が届かず、トラックを移動させようと輪止めを外したところトラックが下り坂を動きだし、法面に乗り上げて横転し、その下敷きになったもの。	30105	10～ 29
2018	12	8 ～ 9	林内道路の舗装現場（道路幅約3m、道路勾配約18%）において、生コンクリートの荷卸し作業のためにミキサー車（アジテータ・トラック）を駐車し、被災者が運転席から降りて後方のステップに上がっていた際に車両が動き出した。運転席は無人で、停車させることができなかったことから車両は山肌に乗り上げ横転し、被災者は車両の下敷きとなった。	10901	1～9
2018	12	12 ～ 13	被災者は、下り車線において、高速道路上の工事に伴う車線制限誘導作業を北に向かって行っていたところ、南から同僚の運転する2トントラックが後退し、それに轢かれた。その後、病院に搬送されたが、出血性ショックにより死亡した。	170201	50～ 99
2017	1	10 ～ 11	養豚場施設解体作業で発生したコンクリート片をドラグショベルでダンプトラックに積込みをするにあたり、被災者所属事業場の労働者が当該ダンプトラックをドラグショベルへ接近させるため後退させようとしたところ、地面がぬかるんで駆動輪が空転して後退できなかった。そのため、元請の代表者が当該ダンプトラックの運転を代わり、一旦前進した後、勢いをつけて後退したところ、木片を一輪車で運搬していた被災者に激突した。	30209	1～9
		8	駅構内において、被災者が道路を横断していたところ、他労働者が運転する		50～

2017	2	9	～	トラックに衝突された後、約 20メートル引きずられた。搬送先病院にて、死亡確認された。	40301	99
2017	4	10	～	事業所内のT字路において、トラックの後進誘導を業務とする警備員の被災者は、近接する休憩所において休憩していたが、T字路から後進してきたトラックを見た被災者は、これを誘導するため、急いで休憩所を出た。被災者が車道に入ったところ、前進走行してきた別のトラックに激突され被災した。	170201	1～9
2017	5	6	～	病院廃棄物保管庫にて、廃棄物（ダンボール）を収集するためゴミパッカー車を駐車し車輦を降りた際、駐車した場所が緩やかな下り勾配であったことから自走し、当該車輦を止めようとして前方に入り込んだが、そのまま押されて、感染性廃棄物保管建屋と自走した車輦に挟まれた。	150102	50～99
2017	9	4	～	構内の作業場に向かうために自転車で移動中、交差点を横断していたところ、直進してきたトラックと衝突して転倒し、そのままトラックの下敷きとなり、右後輪部で轢かれた状態で発見された。	150101	10～29
2017	9	10	～	県道バイパス工事の道路標識の取付け工事を行っていた現場で、工事車両を誘導していた誘導員が、隣の工事区間に土砂を運搬してきた10トンダンプの後進により轢かれて死亡した。	170201	10～29
2017	10	14	～	労働者Aは会社構内でヒアブと呼ばれる移動式クレーンを積載した20t貨物トラックを後方左側にバックしながら走行中、当該車両後方左側にあったプレス場の外部柱付近にいた被災者に気付かないまま走行し、当該車両後方左側のバンパー部分が被災者に激突した。その後、被災者が俯せに倒れたところに当該車両がバックで走行したため、被災者は当該車両に轢かれて負傷し、その後死亡した。	80109	10～29
2017	11	6	～	事業場の倉庫前面の公共バースにおいて、貨物搬入待ちのトラック1台を被災者（警備員）が誘導していたところ、トラックの左前部が被災者に接触し、その際に押し倒されるようにしてトラック左前輪でひかれて被災した。	170201	30～49
2016	2	9	～	水路改良工事現場において、作業開始後、作業の進行に伴い4tダンプ車を傾斜路に停車させ、バックホーにて荷卸し作業中に停車していた無人の4t	170201	30～

		10	ダンプ車が動き出し、交通誘導員の被災者がひかれた。		49
2016	4	10 ～ 11	積載型トラッククレーンからの荷卸作業に際し、後方を向いていたクレーンのブームを前方によけるために、職長がギアがバックに入っているとは知らずにクレーン操作のためエンジンキーを回したところ、トラックが不意に15cm程度後退した。その直後、トラックの後方で、後あおりが開いた状態で被災者が仰向けに倒れているのが発見され、被災者の胸部に水平な線状の痣が認められた。	30104	1～9
2016	4	15 ～ 16	資材置場内の道路上に散乱していた小石等を撤去するため、被災者は当該小石等を数か所に集め、順にトラック（2tダンプ）の荷台に積み込む作業をしていたところ、上り13%の勾配の道路を後進で上がってきたトラックに轢かれた。	30309	1～9
2016	5	10 ～ 11	ガス管敷設工事で、片側一車線の北側車線を規制し、午前9時より作業を開始した。現場の東側のガス管を溶接するため、現場の西側の溶接機を積んだトラックと現場の東側のトラックを入れ替える際に、元請労働者がバックで溶接機を積んだトラックを移動中、このトラックを誘導していた被災者が轢かれ死亡した。	170201	10～ 29
2016	8	13 ～ 14	被災者は、会社の休日に出勤し、盗難防止用にアウトリガーを張ったトラック（積載形トラッククレーン付き平ボディー）の洗車作業中、当該トラックを移動させるため、トラックのエンジンを掛けて降りた後、アウトリガーのスイッチを操作し、アウトリガーを上昇させ地切りしたところ、当該トラックが逸走し、隣に駐車していたトラックのキャビンと当該トラックのアウトリガーに挟まれた。	80109	1～9
2015	5	13 ～ 14	被災者は、木造家屋解体現場で発生したがれき等の産業廃棄物を4tトラックで中間処理施設に運搬し、廃棄物の荷降ろしを終えた後、トラックを近くの路肩へ移動し停車させ、トラックの後板（あおり）持ち上げて固定しようとしていたところ、後板を持ち上げ損ね、倒れた後板が被災者の身体に激突し、被災者はその場に転倒した。病院へ搬送されたが、翌日（5月31日）	30202	1～9

			に死亡した。		
2015	12	8 ～ 9	被災者は、隣接の冷凍倉庫会社の冷蔵庫に保管してある商品を受け取るため、同社に書類を提出して、元の作業場所に戻ろうとした際、傾斜している駐車場に駐車して運転手が乗車していなかった別会社の2トン保冷車が動きだし、被災者に激突したものの。	50101	1～9
2015	12	9 ～ 10	ダンプトラック荷台の最後部にある開閉式の「扉」を補修する作業において発生した災害。被災労働者1名が、当該扉（推定重量は約100キログラム）を開いた状態でその腐食部位を溶接によって補修していたところ、これを保持していた支柱が何らかの理由により脱落したために当該扉が落下し、これが被災労働者の頭部を直撃したものの。	40309	10～ 29
2015	2	9 ～ 10	粉粒体運搬車からセメント粉をサイロへ空気圧送しようとしたところ、タンク上面の投入口蓋から空気が漏れる音がしていたため、被災者が投入口蓋のハンドルを操作したところ、投入口から空気が一気に抜けたため、投入口蓋が勢いよく開き、被災者の右の額に激突し、脳挫減症となり、粉粒運搬車から、3メートル下の地面に落下したものの。	80209	10～ 29
2015	3	16 ～ 17	事業場構内で廃棄物収集用のアームロール車（専用鋼製コンテナを、フック付動力アームを装備した専用貨物車両に当該アームで積み降ろしする車両）に、廃棄物を入れた専用コンテナを積む作業中、コンテナが車両のガイドローラーから外れ、フックからも外れ側方へ転倒、下敷きとなったものの。	30309	10～ 29
2015	3	15 ～ 16	被災者が、軽トラックを配達先住居の駐車場に停車させて降車したところ、無人の軽トラックが後退し、住居前道路脇の側溝に軽トラックが落ち、軽トラックと側溝の土手との間に被災者が挟まれて死亡したものの。配達先住居の駐車場の傾斜角は8度、道路の傾斜角は3度であったものの。	170209	1～9
2014	1	10 ～ 11	道路補修現場にて、被災者は、道路上でアスファルト切削後の路面の厚みを写真撮影する準備を行っていたところ、切削後に搬出するアスファルト切削片を積み込むため後進してきたダンプトラックに轢かれた。	30199	1～9
		9	被災者は、現場に到着後、前のダンプの荷卸しが終わるのを待つために待機していた。その際、被災者のダンプの前で待機していたダンプが無人のまま		10～

2014	1	～ 10	坂道で動き出し、約180m移動した後に被災者の車両に衝突した。被災者は、避難しようとダンプを降りたが間に合わず、両ダンプの間に挟まれた。	40301	29
2014	4	15 ～ 16	製鉄所構内を自転車で走行中、T字路交差点にて、同一車線上に停車していたダンプトラックが左折したため、トラック後輪に巻き込まれた。	11001	1000 ～ 9999
2014	6	6 ～ 7	側道に貨物自動車を停車させ、買い物をしていた被災者は、貨物自動車が動いていることに気づき、貨物自動車の前に回り込んだところ、電柱と貨物自動車に体を挟まれ、死亡した。	40301	1～9
2014	7	15 ～ 16	自動車整備工場にて、トラックのオイル交換及びオイルエレメント交換中、交換したオイルエレメントにオイルを充填するため、同僚がエンジンを始動させたところ、トラックが走行し、出入口門扉部に激突。被災者は門扉と前輪の間に挟まれ、死亡した。	11701	1～9
2014	8	1 ～ 2	コンテナ埠頭バースのエプロンにて、コンテナ船を係留させる綱に補助ロープを緊結し、トラックの前部けん引フックに取り付け、後進しけん引していた際、別の補助ロープをけん引フックに付け替えようとしたところ、トラックが前進徐行し、車両誘導する被災者らに激突した。	170209	100 ～ 299
2014	9	14 ～ 15	粉末生石灰をジェットパックローリー（粉粒体運搬車）のタンクからサイロへ圧送（圧縮空気）作業中、圧送用配管内に詰まりが生じたため、タンク内圧を抜いて逆流させようと、内圧解放弁を開け、併せてタンク上部のマンホール蓋を開けようとしたところ、残圧により蓋が吹き飛び、被災者に激突。反動でタンク上部から約2.5m墜落した。内臓出血によるショックで死亡した。	40301	30～ 49
2014	10	9 ～ 10	倉庫にて、清掃中、荷卸しのためにバックしてきたトラックと倉庫のバースに挟まれた。	40301	30～ 49
2014	11	14 ～	オークション会場内で、大型トラックの後進誘導中、隣に駐車していたトラックが発進したためその後輪にひかれた。	80109	1～9

		15			
2014	12	16 ～ 17	給油設備にて、トラックが後退していた際、事務所から出てきた被災者に接触した。	40301	1～9
2014	12	19 ～ 20	被災者が製品搬送用トラックの誘導をしていたところ、トラックの後方で倒れていた被災者が発見された。	11209	1～9
2013	1	4 ～ 5	被災者は、下り坂の路上で、ごみ収集車の運転席から降りて前方にあった可燃物ごみを収集していたところ、無人のごみ収集車が動き出し、腹部を激突された。	150109	30～ 49
2013	7	11 ～ 12	走行中に故障した8 tトラック（ウイング車）の修理のため、作業員2名で現場に向かい、被災者を現場に残し、1名が必要な工具を営業所に取りに行き、再び現場に戻ってきたところ、トラック左後輪に被災者が巻き込まれていた。	170209	1～9
2013	7	16 ～ 17	被災者は、ハンドガイドローラーでジャリ道を舗装していたところ、後進していた4トンダンプトラックに激突、転倒した際、左後タイヤに頭をひかれた。	30106	10～ 29
2013	12	9 ～ 10	スラグ加工所において、加工されたスラグをホッパーからダンプトラックに積載し、所定場所に配置する作業中、別の作業をしていた労働者が、同作業場所に立ち入り、後退して来たダンプトラックに轢かれた。	11001	100 ～ 299
2013	6	8 ～ 9	空コンテナヤードで、車内で順番待ちをしていたトレーラー運転手が仮眠から目覚め、前で順番待ちをしていた車がいなくなっていたため前方に進んだところ、運転者を起こすために運転席側に回ろうと自転車でトレーラーに近づいていた被災者（警備員）に気づかず、自転車ごと轢いた。尚、被災者は、当該地区で誘導業務を行っていた。	170201	30～ 49
2013	5	12 ～	S R C造・地下2階・地上4階の建物新築工事現場において、クラムシェルで掘削した土砂を現場から排出するトラックを、現場内において誘導する作	30201	300

		13	業に従事していた１次下請の労働者が、後退してきたトラックに轢かれ、死亡した。		～
2013	4	11 ～ 12	パッカー車の助手である被災者は、クリーンセンター内のごみピット内（深さ約１５メートルであるが、ごみが８メートルほどたまっていたため、実質深さ７メートル）に墜落し、その後、被災者の上に圧縮されたごみ２トンが投入され、窒息死した。	150102	30～ 49
2013	5	11 ～ 12	被災者は、道路除染用ショットブラストを使用して、道路の除染作業を行っていた。除染作業中、ショットブラストが故障したため傾斜約１０度の坂にトラックを停車させてサイドブレーキを掛け、輪止めを１個設置した状態で運転者がトラックから降りたところ、トラックが輪止めを乗り越えて逸走し、ショットブラストを修理していた被災者に激突した。	30309	1～9
2012	11	11 ～ 12	リサイクル製品を２ｔダンプで搬入した被災者は、２ｔダンプを勾配１度～６度のアスファルト上に停車させ、運転席から降車し、約８ｍ離れた当該処分場事務所に入っていたところ、当該ダンプ車が逸走したため、逸走したダンプ車の進行方向に回り込んだところ、当該ダンプ車と進行方向に停車していた別のトラックとの間に挟まれた。	80109	1～9
2012	3	14 ～ 15	地滑り防止工事現場において、工事が完了した後の清掃・片付け作業を行うため、ダンプカーを現場事務所前に駐車していたところ、当該ダンプカーが突然逸走し、被災者は逸走してきたダンプカーに激突し轢かれ、死亡した。	30199	1～9
2012	2	11 ～ 12	到着した貨物船からコンテナを陸揚げするにあたり、コンテナが載ったシャーシ（コンテナを載せた状態で着港したもの）をトレーラーで牽引し、貨物船と岸壁を往復する作業中、岸壁部分でコンテナ（間口２.４ｍ×２.５ｍ、奥行６ｍ、約９ｔ）がシャーシから右前方に飛び出すように崩れ、運転席に激突した。	40301	30～ 49
2012	8	22 ～ 23	被災者は勤務を終えて通勤に使用している自転車に乗り、駐輪場を出て事業場の出口に向かって走行していた。階上にトラックを移動するための傾斜路（ランプウェイ）を横切ろうとしたところ、当該ランプウェイに左折して侵入してきた貨物自動車に激突され、死亡した。	80401	300 ～

2012	3	5 ～ 6	店舗前の出入口付近を清掃作業中、加害者の運転する中型トラック（平式、ロングボディー型、最大積載荷重2.4 t、全長約9m、全幅約2m）が店舗前に駐車するため、後進してきて激突され、さらに店舗の柱部との間にはさまれた。	80209	10～ 29
2012	1	13 ～ 14	道路開設工事現場において、10 t 積みダンプトラックが、丁張設置作業中の被災者と接触した。	30106	10～ 29
2012	6	4 ～ 5	被災者は事業場構内において、貨物自動車をバックで荷受用プラットフォームに付けるにあたり、貨物自動車の後部がプラットフォームから約2m離れた地点で運転者より荷崩れを防ぐため荷を支えるよう依頼され、プラットフォームから降りて荷台に乗り込もうとしたところ、貨物自動車が突然バックを開始し、貨物自動車とプラットフォームとの間にはさまれた。	40301	100 ～ 299
2012	7	6 ～ 7	社用送迎車両を運転して空港内駐車場まで行った後、ロッカー室に向かうべく歩行中、横断歩道上で右折してきたトラックにはねられ、搬送先の病院で脳挫傷により死亡した。	50101	300 ～
2012	3	5 ～ 6	事業場構内にて、帰宅するため駐車場に向かって歩行者用通路を歩いていた被災者は、同事業場所属の自動車運転者が運転するトラックに轢かれ、搬送先の病院で死亡した。	40301	300 ～
2012	4	14 ～ 15	被災者は資材の運搬のため後退するトラックを誘導していたところ、道路上に停止しているバックホウと当該トラックとの間に挟まれた。	30107	10～ 29
2012	6	16 ～ 17	被災者は民家の納屋に網戸を取り付ける作業を行っていた。網戸の取付終了後、何らかの理由により、被災者が使用していたトラックが、当該民家敷地内の下り坂（勾配約5度）から市道へ動き出し、被災者が市道にある電柱とトラックに挟まれた。	30209	1～9
2012	12	17	タイヤのパンク修理作業において、タイヤを洗うために建屋外の水道蛇口付近にいた被災者が、後進してきた同僚が運転するトラックに激突され、その	80209	1～9

		18	反動で転倒した際に頭部をアスファルト地面に強打した。		
2012	6	18 ～ 19	資材センターにおいて、トラック荷台からの荷降ろし終了後、トラックが前方へ逸走、置いてあったフォークリフトにトラックのドアが激突したため、ドアとトラックの車体の間にいた被災者が挟まれ、死亡した。	30201	10～ 29
2012	12	10 ～ 11	改修中の歩道において、当日舗装を予定していた一帯を被災者を含む複数の労働者で養生用にかけていたブルーシートをはがす作業及び除雪作業を行っていたところ、舗装作業開始場所まで舗装用アスファルトの合材を運搬するべく後進してきたダンプトラックにより激突され、被災者が轢かれた。なお、当該トラックが後進する際、誘導者による誘導は行われていなかった。	30106	1～9
2011	2	13 ～ 14	サトウキビを集荷・運搬するため、積載型トラッククレーンの荷台にサトウキビを積み込んだ後、当該トラッククレーンのアウトリガーを被災者が収納したところ、下り坂であったため、当該トラッククレーンが動き出し、畑と道路の段差で横転したため、被災者が下敷となり死亡した。	40302	1～9
2011	9	9 ～ 10	被災者は、現場入口確認のためトラック（積載荷重15t）を停めトラック前方を歩いていたところ、無人のトラックが動き出し被災者に激突、被災者は死亡したものの。	40301	100 ～ 299
2011	12	9 ～ 10	被災者は、解体工事に伴うコンクリート廃材を10tダンプで処理施設まで運搬、廃材搬入の受付をするためダンプを降りてダンプ後方に移動したところ、停車中のダンプが後退し被災者に激突、死亡したものの。ダンプ停止箇所は、下り勾配の傾斜地（約4度）であった。	150102	50～ 99
2011	8	15 ～ 16	コンクリートミキサー車（以下ミキサー車という）を用いて工事現場に生コンを搬入するため現場進入路を走行中、設置された規制ゲート内のこう配約7度の道路上にミキサー車を一旦停止させ、運転席を降りてミキサー車の後方に回り規制ゲートを閉める作業を行っていた運転者が、逸走してきたミキサー車に轢かれたものの。	40301	1～9
2011	12	2 ～ 3	高速自動車道出口の料金所手前で、運転していた大型トレーラーを降り、道路上にいたところ、トレーラーが動き出し避けきれずに壁とトレーラに挟まれ死亡した。	40301	1～9

2011	6	14 ～ 15	保養所の施設改修（側溝の補修）工事において、エンジンをかけたまま停車していた貨物自動車（２ t ダンプ）の運転者が運転席の外からエンジンを停止させたところ、貨物自動車が後方に逸走し、貨物自動車の後方で作業していた被災者がひかれたもの。サイドブレーキはかけられていなかった。貨物自動車には坂道発進補助装置が搭載されてたためエンジンが起動している状態では逸走しなかった。	30106	1～9
2011	7	14 ～ 15	高速道路舗装工事の準備中、コーンで仕切られた工事帯内においてバックをしていた標識車両に、同工事区域の警備員である被災者が接触転倒、胸部を轢かれ搬送先の病院で死亡が確認されたもの。	170201	10～ 29
2010	12	15 ～ 16	寿司海苔の入った段ボール箱を海苔検査場からコンベアで１０ t トラックへ搬入する作業中、搬入作業補助をしていた被災者は、携帯電話で社長の指示を受けて、伝票を確認するため当該トラックの運転席に向かった。数分後、海苔検査場で勤務するパート労働者が、トラック運転席付近で倒れている被災者を発見した。すぐ病院に搬送され一時意識は回復したものの４日後に死亡した。トラックの運転席に乗り込もうとした際に、突風で煽られたドアに激突されて転倒し、頭部を強打したとみられる。	40301	10～ 29
2010	10	21 ～ 22	国道地下のケーブル撤去工事現場において、工事規制区域（左側車線。長さ約４００ m）に、走って来たトラック（４ t 車）が赤信号を無視して突っ込み、保安柵等をなぎ倒して交通規制標識積載車両（２ t トラック）に追突した。この追突のため、交通規制標識積載車両が押し出されるようにガードレールに追突して横転し、被災者（工事責任者）が下敷きとなり死亡した。	30301	100 ～ 299
2010	8	12 ～ 13	昼食を終えて、飲食店の駐車場に停めていたトラックに乗り込む際に、ドライバーが運転席に座らずギアを確認せずにエンジンを始動したところ、ギアが入っていたため前進し、前方にいた被災者に激突し、被災者はトラックとフェンスに胸部を挟まれ圧死したもの。	40301	30～ 49
		15	セメント会社において、積み込んだ石灰石を計量後、再度積み込み場に戻ってきた被災者は、トラック（最大積載量９．１ t）から降車し、トラクター・ショベルの方に向かって歩き始めたとき、停止場所が緩やかな下り勾配と		100

2010	6	～ 16	なっていたためトラックが動き始め、止めようとして前面を押したが止まらず、約5 m逸走し、トラクター・ショベルのタイヤ（直径1.7 m）との間に挟まれた。トラックのエンジンは停止、サイドブレーキは掛けられてなく、車輪止めを使用する等の逸走防止もされていなかった。	40301	～ 299
2010	6	15 ～ 16	被災者が、事業場構内においてフォークリフトを運転中、双方の前方不注意により、交差点で左側から来た8 tトラックと衝突し、フォークリフトから投げ出され、転倒したフォークリフトのヘッドガードと地面の間にはさまれ、死亡した。	50101	1～9
2010	6	10 ～ 11	作業道開設工事において、ドラグショベルを用いて被災者の運転するダンプトラック（車両総重量4 t）に土砂を積込む作業を行っていた際に、被災者が運転席を離れ、ダンプトラック後方に移動したところ、サイドブレーキを十分に引いていなかったために後退してきた無人のダンプトラックとドラグショベルの間に胸部を挟まれた。なお、現場には6度の勾配があった。	30199	50～ 99
2010	5	16 ～ 17	事業場指定のガソリンスタンドにて燃料を充填するため駐車し、運転席より離れたところ、車両（トラック）が前に自走し始めた。被災者が自力で静止させようとしたが、ガソリンスタンドの地形が緩やかな傾斜であったため止めきれず、車両はさらにガソリンスタンド脇を通る7.7 mの公道をも横切って隣地の工場の万年堀に激突し、被災者は車両と万年堀との間に挟まれた。搬送先病院にて5日後に死亡した。	150109	10～ 29
2010	2	20 ～ 21	道路を横断しようと横断歩道を渡り始めたとき、右手より直進してきた2 tトラックに轢かれたもの。病院に搬送され入院加療中であったが、6日後に死亡した。	170201	300 ～ 499
2010	2	13 ～ 14	廃棄物収集先の工場敷地内において、ゴミ収集車の誘導を行っていた被災者がゴミ投入作業のために出荷台の昇降階段へ向かうとき、ゴミ収集車の後方を通ったため、後退してきたゴミ収集車に激突され、出荷台との間に挟まれ死亡した。	150103	50～ 99
		8	現場に向かうため4 t ダンプで市道を走行中、立ち木にアオリが引っかかっ		

2010	2	9	たため、ジャッキアップしてダンプを横にずらそうとしたところ、サイドブレーキを引いていなかったため、傾斜によりダンプが逸走し、後方を歩いていた労働者に激突した。	30199	1～9
2010	2	14 ～ 15	高圧ケーブル取替工事に使用する配管材料を、ワゴン車より変電所内へ積み下ろし作業を行っていたところに産業廃棄物を運搬するダンプトラックがわき見運転により突っ込んだもの。被災者は飛散した車体の一部が体にあたり、病院に搬送されるも3日後に全身打撲により死亡した。また、同じ作業を行っていた労働者も車体と変電所壁にはさまれ、頭部挫傷により即死した。	30301	1～9
2010	2	14 ～ 15	高圧ケーブル取替工事に使用する配管材料を、ワゴン車より変電所内へ積み下ろし作業を行っていたところ、産業廃棄物を運搬するダンプトラックがわき見運転により突っ込んだもの。被災者はワゴン車と変電所壁にはさまれ、頭部挫傷により即死した。また、同じ作業を行っていた労働者も全身打撲により死亡した。	30301	1～9
2010	1	11 ～ 12	自動車整備工場の作業ピット内でタンクローリーの修理作業中、ドライブシャフトを取り外したのでサイドブレーキが解除され、逸走防止措置をしておらず、タンクローリーが後進し、前輪がピットに落下して作業中の労働者に激突し、上半身がピットと車体との間に挟まれた。	11701	10～ 29
2009	12	11 ～ 12	被災者は2tダンプ車を運転し、土砂捨て場に向かう途中、何らかの理由で車外に出ていたところ、停車中の車両が私道から竹藪に転落し被災者に激突、車両と竹藪にはさまれた。	30199	10～ 29
2009	5	15 ～ 16	民家の造園工事において、代表者と被災者の2人で4tダンプトラックで、庭石の運搬作業を行う際、県道から現場へ通じる下り坂を後進させて下ることとなり、代表者が運転する当該トラックを被災者が声を掛け誘導していた。当該坂道を下り、代表者はまだ誘導終了の合図がないにも拘らず後方から被災者の声がしないため、合図が終わり被災者もいないと思い、さらに後進させたところ、まだトラックの後方にいた被災者に激突した。	30199	1～9
		14	一方通行の道路を掘削するガス管の工事において、現場に到着後、2tダンプ		

2009	6	～ 15	トラックの後進誘導中に当該ダンプにひかれ、病院に搬送されたが死亡した。	170201	50～ 99
2009	5	～ 14	共同住宅改修工事現場において、産業廃棄物処理用のコンテナを貨物自動車（脱着装置付きコンテナ専用車）により被災者が誘導しながら据え付け作業中、当該貨物自動車の運転手が、前進するところギアが後進に入っていたのに気付かずアクセルを踏んだため、コンテナの後ろで誘導していた被災者は、コンテナに激突されそのままコンテナと花壇の壁の間にはさまれた。	170201	1～9
2009	4	～ 9	事業場構内において、被災者の運転する貨物自動車に荷を積み込むために荷台後部の観音扉を開けたところ、前方から走行してきた協力業者の貨物自動車に当該観音扉が接触し、その反動で転倒、身体を強打した。	40302	50～ 99
2009	9	～ 18	被災者は、パッケージセンターでの作業が終了し帰宅するため、自家用車を駐車している同構内の駐車場へ向かって歩いていたところ、駐車場を横切ろうと車道から右折してきたトラックに接触し右後輪に巻き込まれた。	80109	100 ～ 299
2009	2	～ 11	ゴミ収集作業（戸別収集）において、ゴミ収集車の運転者と収集作業員2人により作業中、ゴミ収集車が町道を左折後、後進運転したところ、ゴミ収集車の後方にいた被災者を左後輪でひいた。	150103	30～ 49
2008	7	～ 11	被災者が、ドラグ・ショベルのバケットに備え付けられたフックからワイヤーを取り外そうとしていたところ、後背部から後進してきたトラックに激突されてバケットで強打して死亡した。	150103	1～9
2008	1	～ 10	被災者が2tダンプトラックでアスファルトがらを廃棄物処理場に下ろしに行った際、ダンプトラックが林道の法面に乗り上げて横転した。被災者は横転したダンプトラックにはさまれて死亡した。	30110	10～ 29
2008	12	5 ～ 6	被災者は、ホテル内に設置されている遊戯具の定期メンテナンス業務を行っていた。作業場所から車に積んである工具を取りに駐車場所に行き、作業場所へ戻るためにホテル敷地内を徒歩で移動していたところ、後進してきたリネン会社の車両にひかれて死亡した。	11702	30～ 49
		16	事業場内において、金属スクラップを積載したトラックが所定位置に駐車す		

2008	1	～ 17	るために後退している際、走路上に隣接した作業場で作業を行っていた被災者が走路上に侵入してトラックに追突された。	11009	30～ 49
2008	2	8 ～ 9	木材置き場造成等工事現場で、停車中のダンプトラックの荷台後部付近で立っていた被災者に他のダンプトラックが後進してきたため、停車中のダンプトラックの荷台と他のダンプトラックの荷台にはさまれた。	30109	1～9
2008	8	8 ～ 9	通用門手前にトラックを駐車して通用門の守衛室で書類手続き中の同僚のもとに向かったところ、駐車していたトラックが逸走し、トラックに激突された。	150101	100 ～ 299
2008	10	9 ～ 10	上水道管敷設工事において、国道を片側一車線規制にして被災者が交通整理及び重機置場の誘導を行っていたところ、規制車線内で誘導予定の最大積載量4tのダンプトラックが後進してきたため、その後部に接触して倒されてダンプトラックと路盤の間にはさまれて死亡した。	170201	30～ 49
2008	2	14 ～ 15	下水道工事後の市道の復旧舗装工事現場において、午後2時過ぎに舗装路盤の碎石敷き及び路面調整作業が終了した時、雪が降り始めていたため、同日の作業は終了することとした。現場内に置いてある工具類、ポリタンク等を集めた後、積載荷重1tのトラックに載せるために他の作業者がトラックを運転して現場方向に進入したところ、トラックが暴走してトラックに背を向けて歩いていた被災者をはねた。	30106	1～9
2008	10	22 ～ 23	被災者は、トラックに積んであった木製パレットをフォークリフトで荷台から降ろすため、トラックの左側後方荷台あたりの高さまでフォークを上げた状態でフォークリフトを止めてウイングを開いた。更にバッテリーを下方へ開くため、バッテリーレバーを外したところ、積んであった木製パレットがバッテリーに寄り掛かり、その重みでバッテリーが勢いよく倒れて被災者を強打してバッテリーとフォークの間にはさまれた。	40301	50～ 99
2008	5	6 ～ 7	40フィートコンテナとトレーラーヘッドの連結作業を一人で行っていた。連結作業が終了し、シャーシの足の収納後、トレーラーが動き出してトレーラーヘッドとトレーラーの横に置いてあったコンテナシャーシ（40フィート	40301	50～ 99

			コンテナが積んであるもの）との間にはさまれ死亡した。		
2008	4	8 ～ 9	施工現場に向かう途中で、被災者が元請所有の2tダンプトラックのエンジンを停止してダンプから降りて会社の上司を待っていたところ、停車したトラックが後退してきて、その下敷きとなり死亡した。	30209	1～9
2008	9	10 ～ 11	ドラグ・ショベルの修理依頼を受けた被災者が、工事現場でドラグ・ショベル後部のエンジン修理をしていたとき、工事のため路上に駐車していた4tダンプトラック（土砂をほぼ満載）が3%の傾斜路を無人で後退してきて4tダンプトラックの後部とドラグ・ショベルの間にはさまれて死亡した。	11702	1～9
2008	4	10 ～ 11	タンク改修工事に従事していた被災者は、休憩が終わり作業現場に戻ろうとして屋内の現場に入るために設けた仮設の出入口で靴等の履き替えていた。そこに隣の現場（同一元請の別の請負）から出た廃材を積み込むためのトラックが仮設の出入口に突っ込み被害者をはねた。	30302	30～ 49
2008	10	19 ～ 20	13t箱形冷凍車を搬入口前にバックで駐車し、エンジンをかけたままで翌日朝の搬入に備えてパレット移動に用いるジョルダーというレール状の人力運搬機2本を冷凍車内から下ろし冷凍車の扉を閉めた。直後に冷凍車が搬入口の方に動き出したため車を止めようとしたが止めきれず、保冷車の後部扉部分と搬入口のエプロン（床面高さ105cm、厚さ35cm）に保冷車の方を向いた状態で身体をはさまれ死亡した。	40301	10～ 29
2007	5	10 ～ 11	被災者は、停車中の10t積ダンプトラック上（高さ約3m）において、積み荷のコークスのサンプルを取ろうとしていたところ、同ダンプがゆっくり後退し始め、同ダンプと共に停止場所後方の斜面に転落した。被災者は同ダンプ荷台から飛降りた後、同ダンプにひかれた。	40301	1～9
2007	2	16 ～ 17	コンクリートポンプ車に残ったコンクリートを押し出すため別のポンプ車（4t）を横付けし、水圧でコンクリートを吐出させた後、取り出されたコンクリートを一輪車で運んでいた作業者が、ポンプの使用を終えて駐車地点に戻ろうとバックしてきた4t車にひかれた。	30199	30～ 49
		12	工事現場の近くの踏切で大型トラックが立ち往生し、これに気付いた被災者が踏切の外にトラックを誘導していたところ、特急電車が接近し、被災者が		

2007	8	～ 13	踏切内の非常ボタンを押したが間に合わず、特急電車とトラックが衝突した。被災者は衝撃で引きずられたトラックの下敷きとなった。	170201	1～9
2007	1	9 ～ 10	歩道整備工事現場において、西行きの車線を通行止めとし、もう一方の車線で自動車を交互通行させるため交通誘導を行っていたところ、加害者が運転する軽トラックに衝突された。	30199	10～ 29
2007	12	～ 11	クリーンセンター内の資源ごみ集積場において、収集した紙ごみ（ダンボール）を2 tトラック（収集車）から下ろす際、集積場所に近づけるためにトラックを後退させ、ブレーキをかけようとしたところ、トラック運転者が誤ってアクセルを踏み込んだため、トラックの後方にいた被災者がトラックに激突され、トラックと壁の間にはさまれた。	150109	10～ 29
2007	2	8 ～ 9	営業先に出掛けようとして社有車駐車場に向かっていた作業者が、入構して搬入口に縦列駐車をしようとしてバックしてきた大型トラック後部に激突され、ひかれた。	10805	100 ～ 299
2007	11	10 ～ 11	資材配送センター敷地内の駐車場で融雪装置の点検作業を行っていた被災者が2 t ダンプトラックにはねられた。	170209	300 ～ 499
2007	10	～ 11	作業者は、産業廃棄物（非鉄雑品）を8 tトラックにより取引先において荷卸後、地上からトラックの右側面のあおりを上げようとしていたところ、当該トラックに積んで来た「さし枠」を荷台に載せようとしていた重機のアタッチメントの先端が当該あおりに激突し、その反動であおりが被災者を直撃した。	80109	1～9
2007	6	10 ～ 11	会社の倉庫内で、回収してきた古紙等を3 tトラックから降ろしている最中にサイドブレーキをかけていなかったため、当該トラックが逸走し、それを止めに行った作業者が隣の家と当該トラックの間にはさまれた。	150102	1～9
2007	9	5 ～ 6	資材置き場内において、2 tトラックで現場に資材を配達のため、出入り口の坂にトラックを止め、車から降りて金属製の観音扉を開けようとしたところ、止めたトラックが動き出し、門扉との間にはさまれ、さらに門扉ごと押	30201	1～9

			し出されトラックにひかれた。		
2007	2	12 ～ 13	下水道工事において、下水管の布設にあたりマンホールの墨取りの作業を2人1組（一人が道路上、もう一人がマンホールの中）で行っていたところ、工事車両の4 tトラックが後進走行してきて道路上で作業していた被災者がひかれた。	30110	10～ 29
2007	11	9 ～ 10	工場内の通路上に仮置きしていた鉄屑等を所定の置場に移動しようとして、4 tトラックを後退させていたところ、同通路上を通行していた被災者に気付かず、ひいてしまった。	150102	1～9
2007	9	11 ～ 12	プラスチック工場において、印刷不良のヨーグルトプラスチック容器2袋（1袋約10 kg）を構内の廃棄置場に運んでいたところ、バックしてきたトラック（4 tウイング車）の後輪にひかれた。	10805	100 ～ 299
2007	8	11 ～ 12	研修センター駐車場にあるごみ集積場で、作業者がごみ集積場の鉄製の扉を開け、立っていたところ、約1.5 mの距離をバックしてきた収集車と集積所の扉にはさまれた。	150103	1～9
2007	7	15 ～ 16	道路脇からボールが飛んできたため、運転者がブレーキを掛けたはずみで荷台に積んでいたタンクが進行方向に移動し、荷台に乗っていた被災者がタンクと荷台前部にはさまれた。	170201	100 ～ 299
2006	12	14 ～ 15	残土処分場にて車両（4ドアタイプのいわゆるピックアップトラックであり、場内のみの運行につきナンバープレートの交付なし）の下敷きになってるのが発見された。	20201	10～ 29
2006	12	15 ～ 16	被災者は一般国道道路改良工事の工事現場内においてトラック等の車両の誘導を行う警備員で、現場内において車両積載形トラッククレーンの後退中に被災者が轢かれた。	170201	100 ～ 299
2006	11	17 ～ 18	被災者は、フェリー乗り場内において、トラック等が乗船する際の誘導等の作業を行っており、次に乗船させるトラックを探していたところ、同乗り場内で、トレーラーのシャーシ等を船に積み込む作業を行っていた別会社のトレーラーの運転手がトレーラーのヘッド部分のみを運転し、次に船に積み込	170209	50～ 99

			む予定になっていたドラグ・ショベルの位置まで行く途中、走行路を右折したところで、被災者に激突した。		
2006	10	14 ～ 15	宅地造成現場において資材搬入のために停車していた3トンドンプトラックが、傾斜8度から10度の坂道を約26メートル後退し、地下車庫の型枠解体作業をしていた被災者に激突した。	30109	10～ 29
2006	10	13 ～ 14	国道線上における歩道設置工事において、U型側溝等の目地詰め用セメントに用いる砂等の土壌を載せた猫車を押して運搬していた被災者が、背後から後進してきた最大積載量3トンの小型移動式クレーン搭載型トラックに激突された。	30106	1～9
2006	10	18 ～ 19	被災者は物流センターのプラットホームに4トントラックを着ける前に、プラットホームの前でバックしていたトラック荷台後部の観音開き扉を開けていたところ、駐車レーン横の柱と開けた扉の内側の間に挟まれた。	40301	10～ 29
2006	9	14 ～ 15	公道である坂道（傾斜角12度）に塵芥車を駐車し、が運転席から降りたところ、無人のまま塵芥車が坂道を下り、前方に駐車していたダブルキャブに衝突、追突されたダブルキャブは衝撃で押され90度横転し、前方に駐車していた2トンドンプに衝突、その際、ダブルキャブと2トンドンプの間にいた作業員がダブルキャブの下敷きになった。	60101	10～ 29
2006	9	9 ～ 10	本社構内の屋外通路において、被災者が業務打合せのため携帯電話で話しをしていたところ、近くに停まっていた4トントラックが被災者の背後から後退してきて被災者に激突し、轢かれた。	80109	300 ～ 499
2006	6	12 ～ 13	小学校の耐震工事の納品のため現場に入った納入業者の運転者が、校内に入ってトラックを止めて門を閉めようとしたところ、無人のトラックが傾斜地を動き出して約30メートル後退し、運転者が轢かれた。	40301	1～9
2006	7	0 ～ 1	道路拡幅工事現場において、昼休中に、現場敷地内の歩道橋の下の日陰で、被災者が横になって休憩していたところ、後進しながら現場に入ってきた10tダンプに轢かれた。	30106	1～9
		8	牛の飼料である牧草を大型トレーラーにより運搬してきた被災者が、トレー		

2006	6	～ 9	ラー後部扉付近で血を流して座り込んでいるのを、出勤してきた職員が発見した。被災者発見時、トレーラー後部扉は開いており、飼料（牧草１塊約４００キロ）の一部が被災者横に崩れ落ちていた。	40301	1～9
2006	5	～ 8	敷地内スロープに停車していたダンプが逸走し、スロープ下部の駐車場に停車していた、もう１台のダンプ後部で作業をしていた被災者に激突した。被災者は停車していたダンプ、及び逸走してきたダンプに挟まれた。	30199	30～ 49
2006	5	～ 8	敷地内スロープに停車していたダンプが逸走し、スロープ下部の駐車場に停車していた、もう１台のダンプ後部で作業をしていた被災者に激突した。被災者は停車していたダンプ、及び逸走してきたダンプに挟まれた。	30199	1～9
2006	2	～ 12	会社の構内において、被災者が、建築廃材を載せたトラックを重量計に乗せた状況の写真を撮影していたところ、別のトラックがバックで進入し、被災者がトラックに激突された。	30199	1～9
2006	3	～ 7	乳牛の搬送のため、酪農家牛舎前に搬送用トラック（車両後部にモーター駆動ワイヤ開閉形式のパワーゲートが装備されている）を横付けし、他の作業者が１０ｔトラック側面にあるスイッチを入れパワーゲートを開ける操作を行ったところ、約２０°開いた時点で開閉用ワイヤロープが切断したため、ゲート後方で待機していた被災者にゲート本体が直撃した。	40302	1～9
2006	2	11 ～ 12	機械電気工事現場において、被災者がマンホール（深さ１．２５ｍ）内で止水作業を行っていた時、他の労働者がマンホール横に止めてあった２ｔダンプトラックを前進させたところ、マンホールの外に出ていた被災者に激突した。	30301	10～ 29
2006	3	14 ～ 15	小口径配水管布設替工事の現場において、市道上にて誘導していたトラックに警備員がひかれた。	170201	1～9
2005	7	14 ～ 15	砂防ダム建設工事の現場において、丸太を運搬するため、同僚が坂の頂上に止めておいたトラックを後退させようと、エンジンをかけずに、サイドブレーキを解除したところ、トラックが動き、４０ｍ離れた坂の下で作業していた被災者に激突した。	30108	10～ 29

2005	9	14 ～ 15	トラックから降車してパイロンのバリケードを移動させていたところ、5度の傾斜があったためトラックが前進し始めてしまい、これを停車させようとトラックの前側を押さえ続けたが停車させられず、ひかれた。	10109	1～9
2005	8	15 ～ 16	トラックの荷物を降ろすため運転席から降りて荷台の扉を開けていた時、トラックが前進したためトラックの前で停止させようとしたが、敷地のフェンスとトラックとの間に挟まれ、転倒した。	40301	10～ 29
2005	12	16 ～ 17	倉庫ヤード内で、荷積みが完了した輸出用海貨コンテナを別の場所に移動するため、コンテナを載せたトレーラーにトラクタを連結しようと、トラクタをバックさせたところ、トレーラーに貨物搬入票を挟み込んでいた被災者が、トラクタとトレーラーとの間に挟まれた。	50201	10～ 29
2005	4	17 ～ 18	事業場敷地内に駐車していたトラックを移動させるため、その前方に駐車しており進行の妨げとなっていた他の車を別の場所に移動させ、元のトラックに向かっていったところ、後方に逸走してきた他のトラックに激突され、駐車していた別の車両との間に挟まれた。	150102	10～ 29
2005	2	9 ～ 10	国道のポールの塗装作業で、工事中を知らせる案内板を回収するために後進してきた貨物自動車が、交通誘導をしていた被災者に激突した。	170201	10～ 29
2005	3	11 ～ 12	ダンプトラックをやや傾斜のある道路片側に停車させ荷下ろし後、運転席を離れて作業の打合せを行っていたところ、無人の同トラックが後退で動き出し30m走行した後、側溝に横転し、同側溝内で集水桝取付部の型枠組立作業をしていた被災者に激突した。	30107	50～ 99
2005	1	13 ～ 14	マンション新築工事現場内で、場内の仮設道路に敷き並べられた鉄板をズレ止めのためアーク溶接作業を行っていた被災者が、向きを変えようと後進したダンプトラックにひかれた。	30201	1～9
2005	4	16 ～ 17	駐車場出口において、交通誘導中、停止を振り切って突っ込んできた自動車に激突された。	170201	100 ～ 299

2005	3	15 ～ 16	建設現場で大型ミキサー車より小型ミキサー車へ生コンクリートを積み替える作業場所において路上を歩いていたところ、下り坂に停車中の大型ミキサー車が無人で動き出し、小型ミキサー車に伝票を渡すために構内を歩行中の被災者が小型ミキサー車と大型ミキサー車との間に挟まれた。	10901	10～ 29
2005	9	8 ～ 9	トラックの荷台に鉄くずを固定していたロープを解いていたところ、構内を走行していた他のトラックに激突された。	80409	1～9
2005	3	14 ～ 15	バックで工場内に進行してきたトラックに激突され、鉄骨との間に挟まれた。	11209	1～9
2004	10	13 ～ 14	漁港の浮橋棧において、岸壁から浮棧橋に渡るための橋（渡橋）の端部（浮棧橋側）に敷いた鉄板に穴を明ける作業を二人で行っていたところ、発電機やエンジンウェルダー等を荷台に積んだ最大積載量2.25tのトラック（車両積載形トラッククレーン）が駐車していた渡橋から浮棧橋側にバックし、作業を行っていた2名の作業者に激突した。	30111	1～9
2004	11	6 ～ 7	自動販売機で飲み物を購入するため、駐車スペースにトラックを駐車し、道路の反対側に渡るため横断歩道を歩行中、走行してきた大型トラックにはねられ、さらに後続のキャリアカーにもひかれた。	50101	30～ 49
2004	2	5 ～ 6	国道修繕工事の車線規制準備作業中に規制用のバリケードの配置確認作業のための作業車にひかれた。	170201	100 ～ 299
2004	12	7 ～ 8	送迎バスに乗車するため駐車場に向かっていた被災者が、給食の配送を終え、給食棟にバック走行していた配膳車に激突された。	130201	100 ～ 299
2004	12	7 ～ 8	予防治山工事において、ドラグ・ショベルを用いて抜根を2.5 t 貨物自動車に積み込む作業中、被災者が当該貨物自動車を止め、運転席から降りたところ、貨物自動車が急に動き出したことから、それを止めるため、被災者が貨物自動車の荷台に取り付けられた昇降設備をつかんだものの、停止せず、そ	30199	30～ 49

			のまま被災者はバランスを崩し、右後輪にひかれ死亡した。		
2004	11	10 ～ 11	ゴミ集積所内において作業中、停車していたゴミ収集車が緩い下り坂で後ろに動き出し、車とゴミ集積所の柵との間に挟まれた。	150102	10～ 29
2004	4	5 ～ 6	大型トレーラーにて高速自動車道を走行中、燃料切れおよびエンジントラブルのため、路肩に停車し三角表示板を立てて車両左前部分で修理していたところ、後ろから走ってきた大型トラックがトレーラに衝突し被災した。	40301	30～ 49
2004	5	16 ～ 17	土地の片付け作業で杭をトラックの荷台に乗せるため、トラックを杭の近くまで移動させようとバックしたところ、トラックの死角となった杭の近くにおいて何らかの作業を行っていたと思われる被災者に激突した。	90102	1～9
2004	11	9 ～ 10	高速道路舗装工事現場内で、交通誘導作業中、工事現場内をバックで進行して来たダンプトラックにひかれた。	170201	30～ 49
2004	10	8 ～ 9	車両点検を行うため、15t大型トレーラーのトレーラーをトラクタから切り離す作業を行っていた際、トレーラー部分を支えるジャッキを動力により昇降させるための準備作業を鉄製のクランク型ハンドル（縦40cm×横50cm×太さ3cm重さ約5kg）を使用して手動で行った後、ハンドルを抜かずに動力稼動スイッチを入れたところ、ハンドルが動力により回転し被災者に当たった。	40301	50～ 99
2004	3	10 ～ 11	建設現場から発生する残土を受け入れる作業場において、入場してくるトラックに廃棄場所を指示し、伝票を受け取る業務を行っていたところ、残土を廃棄し終え、バックしてきたダンプトラックにひかれた。	170209	1～9
2003	10	18 ～ 19	作業機材を引き取るため6tトラックで工事現場に着き、エンジンをかけたままトラックを下車して車両後部へ回って小型移動式クレーンを操作したときに、トラックが後方へ動き出したので停めようとしてトラックと停車していた50tクレーン車との間にはさまれた。	40301	10～ 29
		11	貨物自動車をリサイクルセンター敷地内に入れるため、敷地入口の扉を開け		

2003	10	～ 12	てもらおうと貨物自動車を降りて入口扉の右側の塀に取り付けられたベルを押そうとしていたときに、サイドブレーキの引きが甘かったため貨物自動車が動き出し、貨物自動車と塀との間にはさまれた。	150102	10～ 29
2003	10	9 ～ 10	打ち合わせのため、事務所を出て駐車場に向かって構内の横断歩道を歩行中に、右折してきたトラックの後輪にひかれた。	11301	1000 ～ 9999
2003	9	～ 15	解体現場のコンクリート塊をドラグ・ショベルでダンプ・トラックに積み込む作業で、ダンプの運転席から降りたときに、荷台に積み込んだコンクリート塊の位置を調整するためドラグ・ショベルで荷台上のコンクリート塊を引っ張ったため、ダンプが後退してダンプのドアとドラグ・ショベルのカウンターウエイトとの間にはさまれた。	30201	1～9
2003	7	15 ～ 16	レンタル物品の回収打合せのため顧客先の駐車場に4tトラックを停め降車したところ、車が斜面に沿って動き出したので、あわてて同乗の助手とともに車の前に回って止めようとしたが押さえ切れず、別の車との間にはさまれた。	80409	1～9
2003	7	16 ～ 17	倉庫の間の通路上に鉄骨屋根を設置する工事で、組み上がった鉄骨の塗装作業を行うため、通路の南西の端に高所作業車を設置して作業台を4.2mの高さに付けて「はけ塗り」作業を行っていたときに、大型トラックが通路西側から入ってきて高所作業車のアームに激突したため作業台から転落した。	30201	1～9
2003	2	9 ～ 10	家庭ゴミの収集作業で、傾斜のある集積場所に収集車を停車させ作業を行っていたところ、車両が動き出したのでこれを止めようとして車両側面部分と公道脇のコンクリート壁との間にはさまれ、勢いでその先の斜面を転げ落ちた。	150109	100 ～ 299
2003	2	～ 17	ゴルフ場内で袋詰めにした落ち葉収集のため、2tトラックをカート道の坂の頂部に停車して運転手が運転席を離れたところ、無人のトラックが坂を下り始めたので、坂の途中で作業をしていた者が進行方向から避難しようと移動したが、トラックが坂を下る途中で脇にあった立木に接触して向きが変わり、避難している者の方に来てひかれた。	60101	30～ 49

2002	12	7 ～ 8	資材置場の通路で携帯電話で話をしていたところ、他の現場に向うために通路を後進してきたトラック（積載型小型移動式クレーン付き）の左後輪に頭部を轢かれた。	30110	10～ 29
2002	12	9 ～ 10	トイレ清掃のため、用具等を載せた一輪車を押して構内の道路を移動していたときに、貨物自動車（構内専用車）が方向転換するためバックしてきて左前輪に轢かれた。	11001	30～ 49
2002	11	8 ～ 9	道路舗装工事において、4 t ダンプを土砂積込み場まで約30m後進していたときに、異常を感じたので下車してダンプ後方を確認したところ、工事現場の誘導員を左後輪で轢いていた。	170201	30～ 49
2002	10	7 ～ 8	タイムカードを押しに行くため工場敷地内を歩行中、バックで走行してきたトラックに跳ねられた。	11703	100 ～ 299
2002	8	16 ～ 17	道路工事現場で、前日までに掘削した残土をダンプ（9t）にドラグショベルで積み終えたとき勾配約12度の仮道からダンプが動き出したので、ドラグショベルの運転席から飛出してダンプの運転席に乗ってダンプを制止させようと併走していて轢かれた。	30106	10～ 29
2002	8	10 ～ 11	ダンプトラック（11.5 t）に道路養生の砂利を積載して運搬途中に、作業用道路（傾斜約10度）に車両を止めて運転席を降り同僚（重機オペ）のところへ歩いて向かっていたときに無人の車両が動き出し、左後輪で轢かれた。	20202	1～9
2002	8	9 ～ 10	散水車を停止して給水作業を行っていたところ、散水車が動き出して接触し水路に落ちたところへ散水車の後輪も落ちたため、後輪と水路壁との間に挟まれた。	30106	30～ 49
2002	5	18 ～ 19	2tトラックのオートマチックトランスミッション交換のため、油圧式リフトを使用してトラックを1m50cm持ち上げ前作業となるプロペラシャフトの取り外しを行ったところ、トラックが後方に動き出したためジャッキから滑り落ちてトラック前部に頭部を打たれた。	11701	10～ 29
		11	大学食堂に卵の配達に行きトラックの荷台上で仕分け作業をしていたところ		10～

2002	4	～ 12	ろ、トラックが後退したので飛び降りトラックに轢かれた。	80109	29
2002	3	14 ～ 15	町道改良工事で、ボックスカルバート設置後の埋め戻し作業中、土砂を運搬してきた10 t 積ダンプを誘導するため徐行しているダンプの後方から左前方に向けて歩行しているときに、ダンプの左前部に接触して転倒し左前輪で腹部を轢かれた。	170201	1～9
2002	1	16 ～ 17	帰宅のために製鉄所の構内道路を正門に向かって自転車で走行し交差点に差ししかかったところ、交差点を東進してきた11 t ダンプに衝突された。	11702	30～ 49
2001	12	8 ～ 9	堤防災害復旧工事において、作業場内に真砂土を運搬する10tダンプトラックが後進してきたときに、ダンプトラック左後方で誘導していた者をひいた。	30199	100 ～ 299
2001	12	8 ～ 9	建設工事現場において、ドラグショベルに給油するため約11度の傾斜地にタンクローリー車を止めドラグショベルの給油口を確認していたときに止めたタンクローリー車が動き出し、ドラグショベルのカウンタウエイト部とタンクローリー車の前部との間に胸部を挟まれた。	80204	1～9
2001	11	11 ～ 12	トンネル内で採石を積んだ10tトラックを坑外の採石仮置場に運送しているときに、前方にあった4tトラックが邪魔なので、それをバックで移動させていたとき、横断排水管の位置を明示するプレートを貼っていた者が4tトラックにひかれた。	30102	10～ 29
2001	6	15 ～ 16	側道の拡張工事において、車両誘導中に、後退していたトラックと接触し頭部を左後輪にひかれた。	170201	50～ 99
2001	5	17 ～ 18	解体工事現場で発生した廃材(畳)をトラックで運搬し、トラックから畳を降ろすために荷台をダンプさせていたところ、荷台に積まれていた畳が倒壊して荷台から滑り落ち、荷台周辺にいた作業員に激突した。	30309	1～9
		11	空瓶の回収作業で、空瓶を入れてある路上のボックスをトラックの荷台に積		

2001	1	～ 12	み込むためトラックを停車し運転席を離れたときに、停車してあったトラックが動きだしたため、それを止めようとしてトラックに乗り込もうとしたが間に合わず、トラックと付近にあった電柱との間に挟まれた。	80109	10～ 29
2001	4	11 ～ 12	災害発生地内工事において、玉石積みの裏込め用碎石を積んで2tダンプトラックをバックしていたがドラグショベルが作業を行っていたため、移動するように運転手に声をかけるためダンプを停車し、運転席から降りて2tダンプの後方へ歩いているときにダンプが動き出して激突された。	30199	10～ 29
2001	3	17 ～ 18	下水道工事において、荷台に砂利を積載したまま後退した4tダンプトラックに、道路上で一般車両の誘導をおこなっていた警備員がひかれた。	170201	1～9
2001	1	14 ～ 15	凍雪害防止工事において、融雪用の側溝を敷設して側溝の周囲を砂で埋め戻す作業中、埋め戻し用の砂を積んだ4tダンプとバックホーのバケットとの間に挟まれた。	30106	10～ 29
2001	1	9 ～ 10	林道工事現場で、斜面に駐車していた無人の4tトラックが後に動き出して荷台後部に激突され、さらに右後輪にひかれた。	30106	10～ 29
2000	12	6 ～ 7	清掃車を駐車して一人でゴミの収集作業をしていたところ、駐車していた場所がやや下り坂であったため清掃車が後退し、駐車場の立木との間に挟まれた。	150103	30～ 49
2000	8	17 ～ 18	下水道工事において、掘削終了後の仮舗装を行っていたところへ坂道に止めていたダンプトラックが後退してきてひかれた。	30110	10～ 29
2000	4	9 ～ 10	下層路盤の改良工事で、タイヤローラーを移動させるのに交差点までバックし、切り換えして前進したときに、交差点内で古い水道管の切断作業を行っていた者に激突した。	30106	10～ 29
2000	9	19 ～	水道管布設作業後の片付け作業で、2tトラック荷台上の水タンクの水で手を洗うため後方に駐車されていたもう一台の2tトラックのヘッドライトを点灯	30109	1～9

		20	するように同僚に指示し、同僚がエンジンを起動させたときにトラックが前進してきたため水タンクを載せたトラックの荷台との間に挟まれた。		
2000	6	15 ～ 16	トラックをバックで運転中、警備をしていた者に激突した。	170201	10～ 29
2000	8	15 ～ 16	自動車修理業者の廃油を回収に行って坂道に停めた自分のタンクローリーが逸走し、下敷きになった。	150102	10～ 29
2000	4	8 ～ 9	資材置場において、2tトラックと4tトラックを縦に並べて資材を積み込んでいたときに、4tトラックが後ろに動き出したので、止めようとして停車中の2tトラックとの間に挟まれた。	30199	1～9
2000	8	7 ～ 8	ダンプトラックの前で休憩していたところ、10tダンプトラックが発進したため、左前輪でひかれた。	30199	1～9
2000	1	14 ～ 15	下水道整備工事現場において、マンホールを覗き込む姿勢で配水管の測量を行っていたときに、隣接した場所で掘削土の搬出を行っていたダンプトラックに激突された。	30110	1～9
2000	9	9 ～ 10	短期大学構内において、就業場所に向かって車道の左側を歩行中、右後方から走行してきた学食運搬車に激突されて転倒し、車両に巻き込まれた。	120109	100 ～ 299
2000	1	10 ～ 11	下水道管布設工事において、3. 4tの碎石を積んだ2tダンプを傾斜8度の坂道の上端に止め、サイドブレーキをかけて運転席から離れ、携帯電話で話をしながら坂道を下っていたときにダンプが坂道を逸走してきて激突された。	30110	50～ 99
2000	7	14 ～ 15	産業廃棄物処理施設内で行った車止めの設置工事の確認のため、施設内の道路を横断していたときにバックできたゴミ収集車に激突された。	30309	1～9
		7	工事現場に入っていた4tトラックの納入順番が違うので一旦場外へ出すため		50～

2000	3	～	笛で誘導し、後進から前進にさせようとしたがそのまま後進してきたため信	170201	99
	8		号機とトラックの後部との間に挟まれた。		
2000	2	8 ～ 9	資材、車両置場において、ダンプのあおり付近で器材等の積込み中に、同僚 がバックしてきた積載形トラッククレーンとダンプとの間に挟まれた。	30106	10～ 29
2000	7	15 ～ 16	ゴミ収集を行って清掃センターのゲートからゴミをピットに投入したのち、 汚れた収集車を洗車して荷台に溜まった汚水をピット内へ捨てるため車両を ゲート前まで再度後退させたときに、箒で車両後部の床上を掃いていた者が 押されてピット内に約10メートル転落した。	150103	50～ 99
2000	8	10 ～ 11	クリーンセンター内で、可燃ごみの投入プラットホームに止めてある自車 (パッカー車)に戻るため投入待機中の2tダンプの後部を通過したときに、こ の車が後退してきたため深さ約2.9mのホッパー内に転落した。	150103	1～9
2000	1	16 ～ 17	工事現場内に置かれてあった山砂利を搬出するため、ダンプを山砂利の近く まで後進させたとき近くで作業していた者をひいた。	30106	10～ 29
2000	2	1 ～ 2	国道の夜間切削工事現場において、切削した舗装材の積み込む順番を待つた め待機場所へ後進中のダンプトラックが、後進経路上にいた者を左後輪でひ いた。	30106	1～9
2000	5	7 ～ 8	ずい道工事において、ズリ運搬作業が終了したので、不要になったダンプト ラック(11t)を坑外の指定場所まで移動させるためバックで走行中、坑内を通 行していた作業者に激突した。	30102	30～ 49
1999	7	0 ～ 1	トラックの運転で、昼休み休憩中に道路に寝そべっていたところ、トラック 積載型小型移動式クレーンの運転席内で休憩していた別の者が両足を運転席 に伸ばしたときにサイドブレーキに触れて、解除したため突然動き出し、ク レーンにひかれた。	30199	1～9
1999	12	16 ～	碎石を運ぶため4tトラック資材置場へ行き、同僚が碎石の積込をしている間 車外で待機していたところ、トラックが逸走しかけたためそれを止めようと	30199	10～

		17	して逸走してきたトラックと資材置場内にいた2tトラックとの間に挟まれた。		29
1999	12	13 ～ 14	下水道管理設を行う現場で、掘削した路面のアスファルトを積載したトラックを移動するため、そのトラックの運行経路上に停車していた別のトラックが待避しようと後進したときに車両の後方で清掃作業をしていた者をひいた。	170201	1～9
1999	12	3 ～ 4	生コンクリートミキサー車を路上に停車して、ウォーター・ジェットのホースを片付けようとしていたときに、逸走して来た同ミキサー車に頭部をひかれた。	30102	10～ 29
1999	11	5 ～ 6	道路改修工事で国道バイパスの1車線を規制するため、交通整理を行っていたところ、切削車に給水するために後退してきた散水車にひかれた。	170201	100 ～ 299
1999	8	16 ～ 17	廃車置場において、廃車を小型移動式クレーン(車両積載型)の荷台にフォークローダー(最大荷重2.5t)で載せたときにトラックが地面の傾斜に沿って動き出したため、フォークローダを降り停止させようとしたが停止せず、約30メートル移動した地点でひかれた。	11701	1～9
1999	11	15 ～ 16	ガソリンスタンドにおいて給油待ちの生コンクリートミキサー10トン車が給油位置に向けて発進したときに、付近で給油のため待機中の給油係店員を左後輪で頭部をひいた。	80204	10～ 29
1999	10	10 ～ 11	オートバイ製造工場の荷さばき場において、大型トレーラーに荷(オートバイの完成品の梱包箱)の積み込みを終了して発進したところ、通行していた構内清掃作業員をひいた。	150109	10～ 29
1999	7	10 ～ 11	私道の修復工事で、約6度の勾配に停車していた2t積トラックをエンジンを始動せずにギアをニュートラルの状態に2m前方に移動しようとしたところ、フットブレーキが作動せず走行を制御できない状態となって、トラックの前方約10mの地点で手均しの作業をしていた者に激突した。	30106	30～ 49
		14	フォークリフトで運搬する荷の場所を確認するため、他のフォークリフト運		

1999	1	～ 15	転者を呼び止め、フォークリフト横で伝票を示していたところへ、10tトラックが後進してきて10tトラック荷台とフォークリフト車体との間に挟まれた。	50101	1～9
1999	6	4 ～ 5	車輦運搬車から車輦を降ろすときに、車輦の固定を外していないことに気づいて降車して固定を外したところ、車輦が自重により滑り出しその下敷きとなった。	40301	10～ 29
1999	5	8 ～ 9	種鶏場で飼料をバルク車からサイロにパイプで注入中、サイドブレーキの効きが甘く、路面の勾配のため後退したバルク車に激突され転倒したところに、バルク車の折れたパイプから噴出している飼料に埋まり窒息死した。	40301	30～ 49
1999	4	11 ～ 12	守衛室内の清掃作業を終えた清掃員が横断歩道を別の建屋に向かって歩行していて、トラックにひかれた。	150101	10～ 29
1999	5	20 ～ 21	集金のため顧客宅前の傾斜路上に0.75トンのトラックを駐車し、トラックの後部に回ったときに、トラックが後退してきたため、被災者が庭の石垣と荷台後方扉との間に頭部を挟まれた。	40301	10～ 29
1999	4	7 ～ 8	事務所でタイムカードを打刻し、約10メートル離れた作業場へ、出荷場を横切って歩行していたときに、荷の積み込みのため倉庫のプラットフォームに車両をつけようとして後進してきた2tトラックにひかれた。	10109	30～ 49
1999	3	17 ～ 18	工事のためバックしてきた2トントラックを誘導中、トラック後部タイヤにひかれた。	170201	50～ 99
1999	2	14 ～ 15	構内でゴミを捨てるために焼却炉へ向かって歩行中、事業場から出発するためにハンドルを切りながら微速で後退してきた大型トラックの荷台左後部に後から激突され、転倒したところを後輪にひかれた。	40301	50～ 99

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_31.htmlに戻る。

